

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392600112		
法人名	社会福祉法人光進会		
事業所名	グループホーム光喜園		
所在地	熊本県菊池郡大津町大字室1713番地		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	令和2年11月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和2年9月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新しい理念「にっこり笑顔で私らしく、ほっこり幸せあなたと共に」を職員が討議、検討し創りました。施設にかかわるすべての方が笑顔で自分らしく、最後まで家族のように関わり、決して一人ではないと思っける様に支援しております。施設長の合言葉である「あなたのベクトルはどこを向いていますか」をそれぞれの職員が心に刻み、常に利用者中心にケアを行っています。利用者に今を楽しんで頂くために、様々なイベントを行ったり、ご家族にも安心して頂ける様に、毎月の状況を写真付きで報告しております。入浴は温泉を完備しており、温泉に浸かりながら、のんびりと過ごして頂いております。地域連携に関しては、近隣の学校関係と連携を取り、昨年は味噌作りを一緒にを行い、試食会も開催しました。また、同法人の保育園・地域の福祉施設との交流会も行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年度は職員で構成する“理念塾”の開催により、理念に沿ったケアの実践状況について話し合う機会が持たれている。理念の中には個別支援の重要性や家庭のような雰囲気の中での生活支援を謳い、職員はチームワークをもって取り組んでいる。各ユニットを1軒の我が家とし、入居者の好みを聞き取りながら作成される献立に添い、調理される日々の食事は楽しみとなっており、職員も同じものを摂ることで、思いを共有しながら腕を振っている。コロナ禍の中、面会や外出など変動もあるが、庭先の花を愛でながらお茶の時間や散歩をしながら敷地内に建てたお地藏さまに手を合わせられる入居者など、心の拠り所となる変わらぬ日常が継続されている。今後の取組にも期待されることである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念塾を開催し、職員の思いを形にした理念を作製する。その思いを忘れない様毎月の施設勉強会の最後に理念についての話を行い、職員の介護に対する方向性を見失わずケアにあたるようにしている。	外部講師による助言や職員で構成する“理念塾”の総意として、開設当時の理念を見直し、新たな内容としている。集団生活の中にも個別の関わりを重視し、家庭生活の延長となるような支援を謳っている。月の施設勉強会で理念への想いを新たにし、各自の指針として支援に反映するよう努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	大津町の地域と連携を図り、他の事業所との合同レクリエーションなども行っている。途中よりコロナの影響もあり、中止となったが今後、地域の一員として他の事業所、高校だけでなく小・中学校等とも交流を深めて行く	コロナ禍の中、中止となった地域行事が多々あったものの、開設時からの継続されている地域交流もある。その中で地元高校生との味噌作り体験は、入居者に昔懐かしい行事として好評だったようで、味噌の出来具合を高校に見学を訪れたり、ホームに生徒を招いて“豚汁会”を実施するなど、相互交流が展開されている。外出を制限せざるを得ない中、ホーム横に建てられたお地蔵様は入居者の心の拠り所として日々の散歩コースとなっている。	管理者は地元の支援学校や高校との交流が、入居者の生活に張りや潤いをもたらしていることに感謝しており、今後はさらに小・中学校との交流を検討中である。実現が期待される。
3		○事業所の方を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、認知症勉強会など伝えている。今年度は、近隣の高校生に認知症サポーター養成講座の講師として参加予定でしたが、コロナで中止となっている。今後、地域と共に生活する共生社会に向けた普及活動に努めて行く。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で事業所の取り組み及び現状報告や事故・ヒヤリハット報告を行っている。皆様からご意見をいただき、交流を行ったり、皆様が年を取って入居しなくなるような施設に出来るように意見を反映している。	本年1月の運営推進会議までを通常開催とし、以後コロナ禍により、各関係者へ文章での報告となっている。行政や地域代表者、医療関係者や家族など参加者の多い会議は、毎月テーマを決め外部講師による講話や、身体拘束、認知症等のミニ研修、町全体の高齢化社会を考える場となるなど、有意義な機会となっている。	会議では参加者や家族に対して取り上げて欲しいテーマや、入居者とともに取り組みたい活動、ホームへの要望などをアンケートで収集するなど会議の活性化を目指している。今後関係者の声の方が更に反映されることが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の担当者とは、今後のケアの相談を行ったりと連絡している。密な連絡とまではいかないが、メールや電話などでのやり取りも行っている。	運営推進会議に参加する行政や包括担当者にホームの状況を発信し、適切な意見を得ながら運営に反映させている。会議では包括センターの役割や地域全体で高齢者を見守るネットワークづくりなどについて紹介されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、毎年勉強会を行い、グループホームとしては、夜間以外の施錠も行わず、基本は、行きたい時に行きたいところに行ってもらうように努めている。職員配置で難しい場合は、ご説明し時間をずらしていくなどの工夫も行っている。	基本的に入居者の行きたい時、行きたいところをセーブすることなく対応するようにしている。職員は拘束について法人会議や運営推進会議でも共有する機会をもっており、検討事項があればその都度話し合う体制ができている。現在、センサーマットを使用する入居者はおられないが、事故防止のため寝具に鈴をつけている方がおられ、家族への説明と了承が得られている。	入居者に対して“待つこと”の難しさも職員意見としてあがっており、ホーム全体の課題として今後も機会あるごとに検討の時間を持たれるよう期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についても勉強会を開催し、無理しない介護やチームとして他の職員にお願いしやすい環境づくりに努め、介護職員が孤独にならない様に行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護と成年後見人制度については、年1回の勉強会を開催している。活用に関しての話し合いは該当者がいなく行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はもちろんですが、介護報酬の改定などの際は、家族会などを開きご説明したうえで、同意書に記入していただき、合わせて質問などを受け付けている。また、不参加の方や急な変更の時は、郵送や電話連絡を行い、その都度質問に対する対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置するが、今の所投稿はなし。家族会などを開催し、その中でのグループワークを行うなどして、意見交換をして頂き、運営推進会議で報告を行い、出来る部分は改善行っている。	家族会での意見や要望は、運営推進会議でも参加者に公表しながら透明性のある運営を図っている。コロナ禍にあっても入居者の近況を個別だよりや情報誌で発信して家族の安心につないでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談などで、その方の得意分野ややりたい介護を聞き出し、サポート行いながら提案の実現に繋がる様活動行う。	職員は毎月のユニット会議で入居者やホームの現状を共有し、施設内・外の研修に参加して自己研鑽に努めている。管理者は年3回の個人面談を通じて、職員の相談事や意見に耳を傾け、職場環境の充実とケア向上に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考査や目標管理の面接を行い、昇給の検討や、個々のやりがいにつながる研修を紹介するなど、モチベーションアップにつなげている。 研修案内なども作り、職員の得意分野を後押しするように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の施設内研修を行っている。ユニットで、研修講師を持ち回りして、教える側に立つことでの自己学習も推し進めている。 外部研修に関しては、貸付制度による研修受講を推し進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議にも法人以外の同業施設の参加による意見聴取や大津町福祉施設が交流する機会を設けてる。ユニット職員が交代で会議に参加するよう心掛けている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所検討の訪問の際、ご本人様と話し、性格や生活歴を聞いたうえで、本人の要望や困りごとを聞き、不安な要素を消す努力を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの時点で、ご家族様とゆっくり話を行っている。入居の時点では、ご家庭の様子や今後の方向性について話している。身体拘束をしないので、当然いろいろなリスクがあることなども、すべて話して信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	訪問の際、ご家族及び利用者の状況・お話しや表情、現在のサービス利用の状況を鑑みて、利用者様が現在どこで暮らすことが幸せなのかを考え対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員には、利用者を認知症と思わず、まずは「人」ということを考え行動するように話している。一家族と同じように対等の立場で接するように話している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人だけでなく、家族のアセスメントを取りながら、家族関係の見極めを行っている。一方的に面会に来ない家族に対し、面会に来るように言うのではなく、関係性を見極めたくうえで、来やすい環境づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の調査を行う上で、買い物に行かれていたところや遊びに行かれていたところなど、買い物支援の際にお連れするようにしている。コロナの流行後は行えていない。	開設から5年目を迎え、福祉村を形成する他事業所との合同行事や保育園児との交流も入居者にとって馴染みとなっている。コロナ禍で室内活動を余儀なくされる中、入居者がこれまで培った手仕事、ランチョンマットやテーブルクロス作り、野菜切りや料理のつぎ分け、テーブル拭きなどで食へ関わってもらうよう支援している。	職員は今後これまでのドライブの復活や、入居者に馴染みの旧道での日曜日などに足を運びたい考えである。実現が待たれる。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に利用者の行動や言動に留意し、職員が入り過ぎない様に努めている。状況次第で場の空気を作るような接し方に心がけることで、共同生活の構築に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前は、併設の特養に行かれた利用者の所に面会に行ったりしていたが、現在対象利用者がいなく、併設の特養には、昔ながらの馴染みの関係がある利用者様をお連れしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の自主性を大切にしている。勤務の時間帯も利用者に合わせて、その都度、検討を行っている。又、生活歴を重視し利用者様が出来なくなっている事に傷つかないように配慮しながら、希望を聞き出して、慎重に検討している。	職員は日々の生活の中に入居者の得意分野や食、衣類の好みなどを会話の中に織り込みながら、思いを引き出し支援に反映させている。入居者の言動を否定することなく、寄り添いのケアから発せられる一言を共有し、プラン作成に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者の過去のサービスの使用状況などを聞き出し、必要時は過去の利用施設に問い合わせ状況の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の状況や今できることなど、利用者をお傷つけないように配慮しながら、出来ることはして頂くなどの役割を見出しながらケアを行っている。 利用者のやりがい作りに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現在の認知症の症状を探りながら、ケアに当たっていき、本人・ご家族との関係性も考慮しながら、介護計画の作成に当たっている。	入居者家族の意向を普段の会話や面会時に確認し、担当者会議でさらに家族の意向を掘り下げ、収集している。面会のできない現在は、電話での聞き取りとなっており、計画作成担当者は入居者の近況を具体的に伝えながら、家族の意向を受け止め、職員意見を反映したプラン作成を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の日々の様子は、職員の思いは入れず、ありのまま(利用者が言ったそのままの言葉)で記録するように指導している。重要なことは、申し送りなどを行い、職員の共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族や利用者からのご要望は、取り入れ検討し、出来るところから始めるように心がけている。又、ご提案頂いた事項については、運営推進会議で、報告と現状をお伝えしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の学校関係と協働イベントやレクリエーション活動を行っている。今後、地域密着型の施設として、地域に何ができるか検討して行く		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診に関しては、ADLの低下もあり、ほとんどのご家族が訪問診療を利用されている。一部のご家族は、以前からのかかりつけ医をご利用されている。	かかりつけ医については、法人の協力医やこれまでの医療機関の継続など希望に応じて支援している。また、訪問看護や訪問薬剤師による支援は、心強い存在となっており、情報を共有しながら入居者の健康を支えている。往診の他、受診支援は基本的に家族に依頼しているが、現地で待ち合わせる等柔軟に応じている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院の訪問看護師に月4回来て頂いている。健康チェックをして頂いたり、夜間急変時のオンコール体制をとっている。また、併設の特養に看護師が在中している為、日中の急変時などは応援をして頂く事もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院期間中に安心して治療ができるように、短期入居を利用し、退院後の居場所の確保に努めている。入院に関しては、病院の地域連携室と調整を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合やそうなる恐れがある場合は、ご家族に連絡し、十分なリスク説明を行った後、今後のご家族希望をお伺いしている。 また、かかりつけ医にも時間をとって頂き話を行っている。	入居時に指針をもとに、家族の希望があれば、出来得る限りの支援に努める事を伝えている。同意書については、必要になった時点で再度話し合いの機会を持ち確認している。看取りに関する研修会は、年1回法人内研修に参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設勉強会で急変時の対応及び事故発生時の連絡系統などの勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練は行っているが、地震や水害想定訓練は行っていない。現在の施設の場所は、地震や水害時の避難退避所として適切であるため、今後その想定で対策計画する予定。又、現在のところ地域消防団が参加しての避難訓練は未実施	特養施設と合同で避難訓練を実施しており、今年度は1回行っている。地震や水害など自然災害を想定した訓練や、地域消防団の参加協力を得た訓練の実施には至っていない。	チェック表を活用した安全管理も有効かと思われる。避難所を想定した計画も予定しており、実現が期待される。また、昨今の自然災害は、想像を超えるものであり、今後も机上での訓練や自然災害を風化させないような取組も必要と思われる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の勉強会を行い、本人の自尊心を傷つけない対応には、特に気を付けるように職員には話を行っている。認知症の前に一人の人だと言うことを徹底している。	呼称は基本的に苗字としているが、家族の了解を得、下の名などその方に応じて対応している。管理者は個々に応じた支援の重要性を語っており、職員の共有に努めている。また、個人情報や守秘義務の徹底についても研修などを通して周知を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	すべての行動は、ご本人に確認してから行うように心がけている。認知症により判断が難しそうな場合は、2択にして自己決定を促すなどの工夫を行っている。認知症により判断に時間がかかる事もあるので、待つことも大切である事を指導している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべくその方のペースに合わせた介護を行っている。施設内の行動については、自由に行動して頂いている。一部、施設外の散歩に行きたい利用者に対し、職員が少ない時は、待つ頂く事はあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性の利用者などは、化粧をされたり、お洋服を選ばれたり、おしゃれを気にされていると思います。整容などの声掛けは、行いますが、基本ご本人様にして頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に食事作りをしたり、食べたい物を聞き、時にはテイクアウトを行う事もあり。家庭的な雰囲気での食事に努めている。	各ユニットを1軒の我が家として、献立作成や職員による調理が行われている。メイン食材は地域商店から配達され、菜園野菜の活用など季節感を取り入れ、個々に応じた食形態での提供など入居者の楽しみとなっている。新型コロナウイルス感染症から入居者の食材購入への取組は行われていないが、野菜切りや皿洗いなど出来る事で食への関わりを支援している。	外食支援が困難な現状であり、それに代わり中華や麺料理など出前を活用し、雰囲気を変えた食事支援が行われている。今後も入居者の楽しみとなる食事提供の継続に期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量のチェックはしていませんが、水分が少ないと思われる利用者様に関しては、チェックを行ったりします。又、野菜などや栄養のバランスには気を使っております。利用者の嗜好も頭に入れ、時にはご自分のお好きな物の提供をすることもあります。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本は、本人さんに声掛けし、歯磨きをしていただいています。難しい方に関しては、一部お手伝いをすることもあります。訪問歯科により、半年に1回の口腔内検査も実施しております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方々に合ったタイミングでの声掛けを行い、トイレ誘導を行っている。トイレでの排泄を機能訓練の一環と考え、出来る部分を引き出せるように介護を行っている。	日中はトイレでの排泄を基本に支援しており、現在、布パンツで過ごされている方も多く、状況に応じてリハビリパンツを使用する方もおられる。夜間のみオムツやポータブルトイレを使用されるなど、個々の排泄状況に応じて支援方法を検討している。自然排便につながるよう、適宜の運動の他、個々に合わせて乳酸飲料などを取り入れている。排泄用品は、ホームで準備しているが、面会を兼ねて家族が持参されるところもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	きな粉ヨーグルト・ミルミル・ジョア・オリブオイル・オリゴ糖・牛乳等と色々な食材を使用し、その中から利用者に合った食材を見つけ出す工夫を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	温泉の使用上、午前と午後の使用制限はあるものの、基本、すべての利用者様に入浴の有無をたずね毎日入浴介助を行っている。 入浴とは清潔保持だけが目的でない事を職員は考え、くつろいで頂ける様に支援している。	入浴は広い温泉浴室を中心に入られているが、こじんまりとした空間を好まれる方には、個浴での支援を行っている。殆どの方が週3回の入浴であるが、中には毎日楽しめる方もおられ、職員は清潔保持だけが目的でなく、寛ぎの時間であることを共有し、個々に応じた声掛けや誘導に努めている。また、入居者同士の声掛けの光景も見られるようである。午後入浴支援終了後は、酸性水を流し、清潔に管理している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本、寝たいときに寝ていただくスタイルをとっている。夜寝れないから昼起こしておくなどの対応は行わず、利用者の状況の観察に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については、薬情カルテを訪問薬剤師さんが毎回更新しており、職員はそれを確認して、状況の変化などに気を付けている。薬局との連携は密に取れており、新しい薬が追加になった時は、どこに気を付けたらよいかを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者それぞれの役割を見出せるように努力を行っている。昔されていたことでも、現在どこまでできるかを調査しながら、本人が傷つく事がないように役割を見つけ出している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人さんが外に出たいというときは、基本職員はついていだけで、行先は利用者にお任せしている。月1回外出ができるように計画し、その際、ご家族にも参加していただけるように声掛けしている。	コロナ感染症発生以前は、季節や入居者の楽しみとなる外出が数多く支援されている。2月の植木市や家族にも参加を呼び掛けた地域公園での花見以降は、敷地内の散歩や庭先で花を愛でながらのティータイムなど、感染症に配慮した身近な外出に取り組んでいる。	コロナ感染症の収束が見えない現状であり、しばらくは以前のような外出は困難かと思われる。外気浴の機会や外出気分を味わえるビデオやDVD視聴、雑誌の閲覧など職員のアイデアや一工夫に期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族に同意書を頂き、3000円までご自分で保管できる体制を作っている。ご自分で保管されている利用者に関しては、お金を数えられたり、職員と同行し買い物に行かれる。預り金がある利用者も職員と同行し衣類などの買い物を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	玄関に意見箱を設置するが、今の所投稿はなし。家族会などを開催し、その中でのグループワークを行うなどして、意見交換をして頂き、運営推進会議で報告を行い、出来る部分は改善を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に出来るだけ私物を持ってきていただけるようにお話している。又、利用者の状況を見ながら、ご家族と相談の上居室の工夫などを行っている。	それぞれのユニット内は、職員間で工夫を凝らしながら環境作りを進めている。掃除や換気の徹底により臭気もなく、来訪した家族にも安心に繋がっている。廊下の共有空間には新型コロナウイルス発生依然の外出を中心に、思い出の写真が掲示されており、ホームの活動を知らることができる。	管理者は掲示写真の位置を少し下げた方が、車いす利用者などにも見やすいのではと改善点をあげている。あわせて、写真撮影日を記すことで来訪者や入居者との会話もよりわかりやすくなると思われる。取組に期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニット内では、利用者が好きなときに散歩に行かれたり、テレビを視聴されたり、カラオケに行かれたりと、思い思いに過ごされる事で、ご自分の居場所の提供を行っている。また、利用者同士で、話しをされているときなどは、関係性を見極めながら、必要なときに間に入るなどの対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、火気や動物の持ち込み以外は、何でも持ってきていただけるように話している。私物に囲まれ心穏やかに生活して頂け得るように配慮している。	入居申し込みの際は、比較的馴染みの品などが多く持ち込まれている部屋を案内し、参考にしてもらっている。着慣れた衣類をはじめ必要な品の他、パソコンなどを置かれた部屋もあるが、昨今は入院先や他の施設からの入居もあり、持ち込み品や数も少なくなっている現状である。職員は必要な品があれば家族に依頼したり、日々の掃除により居心地よく過ごしてもらえよう努めている。	気軽に搬入できない品(家具など)の持ち込みは困難であるかもしれないが、帽子や小物、趣味の品、大好きな花や動物のついたカレンダー、思い出の写真など家族の協力も得ながら個々に応じた居室環境作りに期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者それぞれの危険認知面などを理解したうえで、出来ることをして頂き、自立した生活が送れるように支援している。職員は、出来ない部分の一部を介助するのみで、しすぎないように気を付けている。また、利用者の行動を見極め、テーブルの配置やソファの配置をその都度変更することで、安全な空間を提供している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で新しい理念を作り、共有出来る様に朝礼や会議前に唱和している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度はコロナの影響で交流出来ていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年度までは運営推進会議を通じて、認知症の勉強会等をしてできていたが、コロナの影響で運営推進会議も今年度は出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響で今年度の運営推進会議は出来ていない。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が市町村の担当者とは、今後のケアの相談を行ったりと連絡している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年施設研修で理解できており、身体拘束がおきかないよう職員同士ケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と並行し虐待に対する勉強会を行っている。虐待に至らないよう、職員間で注意し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の勉強会も年に1回行っているが、成年後見制度が必要な入居者の方が居らず今後の課題である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約時や介護報酬の改定などの際は、家族会などを開きご説明したうえで理解・納得して頂き、合わせて質問などを受け付けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当者会議の際ご意見やご要望を伺い、スタッフ間で共有し、ケアに反映させている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー会議やユニット会議を通じて、職員の意見や提案を聞いている。提案が出た場合は、出来る限り実現できるよう努力している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考査や目標管理の面接を行い、昇給の検討や、個々のやりがいにつながる研修を紹介するなど、モチベーションアップに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の施設内研修を行い、ユニットで、研修講師を持ち回りして、教える側に立つことでの自己学習も推し進めている。外部研修に関しては、貸付制度による研修受講を推し進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議に法人以外の同業施設の参加されている為職員が交代で参加していたが、コロナの影響で今年度の運営推進会議は出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居当初は、どのような方なのか、ご希望は何かを伺いながら、しっかり傾聴し関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人の情報だけでは、わからない部分もある為それを含めながら、ご希望等お話を伺い、関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設である為サービスは限られているが、スタッフ間で話し合いながら、色々なケアを行い、本人に合っているケアを模索し努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームの良さを活かし、出来るところは日々見守りながら見極め、おまかせしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には、ご本人の状態を毎月のおたよりや電話、面会時に逐一報告し、疎遠にならないよう気をつけているが、コロナの影響で面会に制限がある為今年度はご家族との関わりが減ってきている為今後の課題である。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物に行かれていたところや遊びに行かれていたところなど、買い物支援の際にお連れするようにしていたが、コロナの影響で今年度の買い物支援を中止している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に利用者の行動や言動に留意し、時には間に入ったりと共同生活の構築に努めているが、利用者間にも合う合わないがあるので配慮しながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前は入院や特養入居の為退居された方のお見舞いや面会等行っていたが、亡くなって退居される場合が殆どの為関係は継続出来ていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らしの希望を聞き取るよう努めている。困難な場合はご家族からも聞きとり、本人の思いに添えるよう努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居された際に聞き取り、足りない部分は面会時や本人から聞き、把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の状況や今できることなど配慮しながら、出来ることはして頂くなどの役割を見出しながらケア行い、利用者のやりがい作りに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を実施して出来ている。会議に参加出来なかった多職種にも相談し反映出来ている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の日々の様子は、職員の思いは入れず、ありのまま(利用者様が言ったそのままでの言葉)で記録するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族や利用者からのご要望は、取り入れ検討し、出来るところから始めるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の学校関係と協働しイベントやレクリエーション活動を行っている。今年度はコロナの影響で出来ていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診に関しては、ADLの低下もあり、ほとんどのご家族が訪問診療を利用されている。一部のご家族は、以前からのかかりつけ医をご利用されている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中での気づきを訪問看護師に相談し、受診に繋げている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後の状態を地域連携室に問い合わせたり、退院に向けての調整を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	訪問診療をお願いしている為、早い段階で家族に現状の説明と家族の意向等聞いて情報を共有できている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設勉強会で、急変時の対応を行っているが、いざという時対応できるか不安はあるので実践力を身につける努力をしていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練で身につけてると思うが地域との協力体制は築けていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の勉強をする中で、本人の自尊心を傷つけない対応には、特に気を付けるようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来ていない時もあるが自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべくその方のペースに合わせた介護を行うよう努力している。施設内の行動については、自由に行動して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服等なるべく本人様に選んで頂き本人の好みの把握に努め支援している。化粧される方もいるので任せている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の特性をつかみ好きな分野の声掛けを行い、一緒に食事の準備や片付けを行っている。利用者様の気が乗らない時などは、職員が行うようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量は個々に合わせて対応している。不足している所は努力し、次につながる様情報共有に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔指導を取り入れ個別ケアに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助が必要な方については排尿パターンを把握し出来る所はなるべく自分でして頂く様働きかけている。排泄の失敗が減った方には使用しているオムツの検討をし減らしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	きなこヨーグルトや牛乳、ミルミル等の提供を行い、個別に対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯は決まっているが、曜日は希望がない限り決めていない。機械浴の方は特養との兼ね合いもあり毎日の入浴は出来ない。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースに合わせて安心して気持ちよく眠れるよう努力している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ皆が閲覧出来るようユニット内に個人の薬情を置いている。症状の変化の確認はスタッフ同士記録や口頭にて伝達している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者それぞれの役割を見出せるように努力を行っている。昔されていたことでも、現在どこまでできるかを調査しながら、役割を見つけ出している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりのその日の希望には出来ないが買い物同行やドライブ・外食等支援している。今年度はコロナの影響で出来ない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の利用者は所持しており訪問販売や買い物同行時好きな物を買えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望時、家族の理解を得て支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心して過ごして頂ける様家庭に近い環境作りを努力している。また、食堂には季節感を採り入れるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニットに独りになるスペースがないので今後居場所づくりの工夫をしていきたい		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に出来るだけ私物を持ってきていただけられるようにお話しているが現状持ち込みが少ない状態。利用者の状況を見ながら、ご家族と相談の上居室の工夫なども行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内散歩を自由に行ったり、ホールの外は窓から自由に行き来出来るよう開放している。洗濯物干しや取り込み等出来る方はお任せしている。		